愛する郷土明石の日常語を蒐集し続けた、著者畢生の仕事がここに結実。

特　色

- この辞典は、明石で使っている言葉について、俚言、関西共通語、全国共通語の区別なく、すべてを集めました。
- この辞典は、著者の祖父母の世代、父母の世代、自分たちの世代の三世代が使っていた言葉、あるいは、使っている言葉を集めました。
- この辞典は、話し言葉の要素が強いとして国語辞典で採り上げていない言葉や、発音の変化した(訛った)言葉も多く取り上げています。
- この辞典の骨子は、言葉の意味の記述と、その言葉を使った用例の提示と、用例の文法的分析です。意味は、言葉の置き換えに終わらず、できるだけ詳しく説明しています。
- すべての言葉について用例を記しています。用例は断片的な表現でなく、文の形で書いています。著者は、生まれてから現在に至るまで同じところに住んでおり、明石の言葉の調査者(研究者)の立場とともに、被調査者(話者)の立場も備えていますので、実際の生活から採集した用例とともに、内省に基づいて作成した用例も加えています。
- 用例は文節に分けるとともに、さらに単語に分けて記しています。
- この辞典は俚言と共通語の区別をすることなく、言葉と言葉を参照することを随所で行っています。

意味

◇ それぞれの言葉の意味は、専門用語をできるだけ避けて、日常の言葉を使ってわかりやすく説明しました。
◇ 言葉の意味がいくつかに分類できる場合は、便宜的な分類として①②③…のように示しました。
◇ 幼児が使ったり、あるいは大人が幼児に向かって使ったりすることの多い言葉はおもに「幼児語」としてあります。

用例

◇ それぞれの言葉の意味ごとに、「　　」で用例を示します。
◇ 用例の仮名遣いは発音に近い表記とし、長音は「ー」(音引き)で示しました。
◇ 用例は2つ以上の品詞がある場合は、それぞれのものを示すようにつとめました。
◇ 用例は、文の形で書くことを原則とし、読みやすさを考慮して、文節単位の分かち書きにしています。また、文節内を単語に分けて、単語と単語の間に「・」の印を入れます。このような表記方法は、本書の大きな特徴です。
◇ 用例の文は平仮名書きとしますが、その用例を理解しやすくするために(　)で漢字を示します。
◇「どっこんでー(=じゃんけんぽん)」のように意味を説明する場合もあり、(=　)という形で示します。

■ 内 容 組 見 本

434　て

強調したりするときに使う言葉。「こーべ(神戸)・で・か(買)い・まし・てん。」◆現在および未来に関することを述べる場合は「ねん」を使う。

でん〔でーん〕《感動詞》　子どもの遊びで、相手にタッチするときに、相手に気付かせるために発する言葉。「でーん。つか(掴)まえ・た・ぞー。」

てんいん【店員】《名詞》　店に勤めている人。店で働いている人。「てんいんさん・が・　かん(感)じ・の・　え(良)ー・　みせ(店)・で・　か(買)い・たい・もんや。」

てんか《終助詞》　相手に対して勧誘や依頼の気持ちを伝える言葉。してくれないか。「やす(安)ー・　する・さかい・　こ(買)ー・てんか。」「もっと・　わかる・よーに・せつめーー(説明)し・てんか。」

でんか【殿下】《名詞》　天皇・皇后など以外の皇族を敬って呼ぶ言葉。「こーたいし(皇太子)でんか・が・　よーろっぱ(ヨーロッパ)・を・　ほーもん(訪問)する。」

てんかす【天滓】《名詞》　天ぷらを揚げるときにできる、小さなころもの集まり。「うどん(饂飩)・に・　てんかす・を・　のせる。」

てんかふん【てんかふ】【天花粉】《名詞》　あせもの治療や予防のために使う、瓜の根からとった白い粉。「ふろ(風呂)あがり・に・　てんかふ・を・　つ(付)け・たら・きも(気持)ち・が・　え(良)ー。」

てんかん《名詞》　発作的に意識障害や痙攣が起こる病気。「ともだち(友達)・が・　てんかん・を・　かい・た・さかい・　びっくりし・た。」

てんき【天気】《名詞》　①晴れ・曇り・雨、気温、風の具合などの空模様。「あした(明日)・の・　てんき・は・　あめ(雨)・やろ・か。」②雨が降ったり雲が出たりしていなくて、青空が見えて空模様がよいこと。「この・　いっしゅーかん(一週間)・　てんき・が・　つづ(続)い・とる。」③人の心が外に現れる様子。「あいつ(彼奴)・の・　てんき・は・　きゅー(急)に・　か(変)わる。」(①②⇒ひより【日和】、おてんき【お天気】。②⇒はれ【晴れ】)

でんき【電気】《名詞》　①エネルギー源の一つで、モーターを回したり、明かりをつけたりする働きのもととなるもの。「でんき・の・　な(無)かっ・た・　じだい(時代)・は・　ふべん(不便)やっ・た・やろ・な―。」②前項のものによって熱を発生させる力。「でんき・で・　ゆ(湯)ーー・を・　わ(沸)かす。」③同様に、明かりをもたらす力。電灯。照明。「へや(部屋)・の・　でんき・を・　つ(点)け・てください。」

でんきアイロン〔でんきあいろん〕【電気 + 英語 = iron】《名詞》　電熱によって、布などのしわを伸ばしたり折り目をつけたりする、金属でできた器具。「でんきあいろん・で・　ずぼん(ズボン)・の・　おりめ(折目)・を・　つ(付)ける。」(⇒アイロン【英語 = iron】)

電気アイロン

でんきがま【電気釜】《名詞》　電気の力を用いて炊飯をする釜。「じどー(自動)・で・　でんきがま・の・　すいっち(スイッチ)・を・　い(入)れる。」◆「せんたくき【洗濯機】」「そうじき【掃除機】」「れいぞうこ【冷蔵庫】」などの前に「でんき【電気】」と言う語を付けることは最近は少なくなったが、「かま【釜】」の前に「でんき【電気】」を付けることは多い。

初期の頃の電気釜

でんきくらげ【電気くらげ】《名詞》　茶色っぽい色をしていて、触ると刺されてビリビリするくらげ。「でんきくらげ・を・　さわ(触)る・の・は・　や(止)め・とき。」

でんきスタンド【電気 + 英語 = stand】《名詞》　机の上などに置く、台の付いた電灯。「くら(暗)い・さかい・　でんきすたんど・で・　てもと(手元)・を・　て(照)らす。」(⇒スタンド【英語 = stand】)

でんきせったっき〔でんきせんだっき〕【(電気洗濯機)】《名詞》　電力を用いて自動で衣類などの汚れを洗ってきれいにする器械。「でんきせったっき・で・　よご(汚)れ・た・　もん(物)・を・　あらう。」(⇒せんたくき【洗濯機】、せんたっき【(洗濯機)】、でんきせんたくき【電気洗濯機】)

でんきせんたくき〔でんきせんだくき〕【電気洗濯機】《名詞》　電力を用いて自動で衣類などの汚れを洗ってきれいにする器械。「むかし(昔)・は・　でんきせんたくき・に・　ふんりゅーしき(噴流式)・と・　かくはんしき(撹拌式)・が・　あっ・た。」(⇒せんたくき【洗濯機】、せんたっき【(洗濯機)】、でんきせったっき【(電気洗濯機)】)

初期の頃の電気洗濯機

でんきそうじき〔でんきそーじき〕【電気掃除機】《名詞》　箒やはたきなどに代わるもので、ごみや汚れを取り除いてきれいにする、電気を用いた器械。「でんきそーじき・の・　おと(音)・が・　やかま(喧)しー。」◆現在では、「そうじき【掃除機】」と言うだけで、「でんきそうじき【電気掃除機】」を意味する。(⇒そうじき【掃除機】)

初期の頃の電気掃除機

でんきのせん【電気の線】《名詞》　電気を通す、金属の線。「たいふー(台風)・で・　でんきのせん・が・　き(切)れ・て・　てーでん(停電)・に・　なっ・た。」(⇒でんせん【電線】)

でんきのたま【電気の球】《名詞》　電気の力を用いた、照明用の光る球。「でんきのたま・が・　き(切)れ・た。」◆蛍光灯の場合は、「けいこうとうのたま【蛍光灯の玉】」と言う。(⇒でんきゅう【電球】、たま【球】)

でんきゅう〔でんきゅー〕【電球】《名詞》　電気の力を用いた、照明用の光る球。「よど(予備)・の・　でんきゅー・を・　こ(買)ー・とく。」(⇒でんきのたま【電気の球】、たま【球】)

でんきれいぞうこ〔でんきれーぞーこ〕【電気冷蔵庫】《名詞》　氷を入れて冷やすものに代わって登場した、電気の力を用いて食品などを冷やして貯蔵する入れ物。「すいか(西瓜)・を・　ふたつわり(二つ割)・に・　し・て・　でんきれーぞーこ・に・　い(入)れる。」◆現在では、「れいぞうこ【冷蔵庫】」と言うだけで、「でんきれいぞうこ【電気冷蔵庫】」を意味する。(⇒れいぞうこ【冷蔵庫】)

てんきん【転勤】《名詞、動詞する》　勤め先が同じ会社や官庁などでありながら、勤務する場所が変わること。「おーさか(大阪)・から・　てんきんし・てき・た・　ひと(人)・の・　かんげーかい(歓迎会)・を・　する。」

てんぐ【天狗】《名詞》　①鼻が高くて赤く、天上や深山に

見出し語

◇ 原則として現代仮名遣いにしたがって五十音順に配列しました。
◇ 見出し語の後の〔　　〕内に実際の発音やその変化、崩れを示しました。
◇ 長音は「ー」(音引き)で示しました。

他の見出し語との対応

◇ この辞典は、同義語辞典や類義語辞典の性格も備えています。その語と重なる意味や、かなり類似した意味を持つ言葉がある場合は、〔⇒　〕で示します。

漢字表記

◇ 見出し語の次に、【漢字表記】を示しました。外来語は、原語の綴りを書きました。
◇ 語句の意味や語源との関係を示すため、常用漢字以外の漢字も使用しています。
◇ 発音が崩れたものや発音が融合したものなどは【(　　)】の表記としている場合があります。

品詞など

◇【漢字表記】の次に、《品詞》(名詞、動詞、形容詞、形容動詞、副詞、連体詞、接続詞、感動詞、助動詞、助詞)などを示しました。
◇《品詞》をさらに分類したり、細かく注記をしたところもあります。
◇ 2つ以上の品詞の性格を持つ言葉は、それぞれの品詞名を併記しました。

写真

◇ 辞典に収めた言葉について、その形あるものを表す写真がある場合は実物例として掲載しています。
◇ 本文(辞典部分)に掲載した写真の大半は、明石市立文化博物館のご厚意によりご提供いただきました。
◇「わが郷土」に掲載した写真は、著者による撮影です。
◇ 本書に収めた写真はすべてモノクロです。